「北極圏旅行記 2015-2016 冬」（６） 2016（H28),-1,-4

「美しき北極圏の風景」

昨日は、列車でナルビクまで行く予定でしたが、オーロラ生中継カメラをより完璧に設定するために、私は行くのを断念しました。同行の友人２人は、列車からのフィヨルドの景観を満喫してきたということです。（写真をお借りしたので、この鉄道旅行記は、別の機会に配信します。）

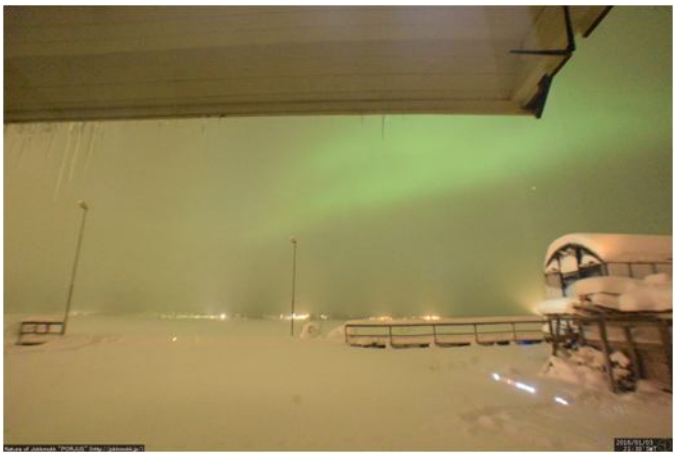
寒い冬の北極圏にわざわざ来る目的は、もちろんオーロラ観望もありますが、もう一つは、冬の北極圏ならではの、美しい風景です。幸い昨日は朝からよく晴れていて、気温も－10℃以上だったので、風景の撮影には最適の日でした。

北極圏の朝は、なかなかやってきません。午前 10 時ぐらいで、やっと明るくなり、風景の撮影が可能になります。これは、駅舎の前からコテージのほうを見たところです。

北西側から見た駅舎です。雪はあまり降らないのですが、少しでも降ると、融けずにどんどん積もり、春までそのままなのです。

「黎明」の状態が何時間も続きます。やがて、太陽が地平線ぎりぎりをかすめ、朝焼けになりますが、そのまま夕焼けになってしまいます。

この日は、アビスコから帰ってくる友人を待って、遅い夕食になりました。パトリシアさん特製のスウェーデン料理です。ポターティス（ジャガイモ）とラックス（サーモン）を使った、すばらしいグラタンでした。これに、溶かしたバターをかけていただきます。



この晩は、オーロラを期待していたのですが、あいにく、雪が降ってきてしまいました。スカンジナビア半島北部を、再び寒冷前線が通過したのです。しかし、不思議なことに、雪の向こうに、淡いオーロラが見えました。とても不思議な光景でした。

しかし、夜半に雪が止んで、気温がぐんぐん下がり、非常にクリアな夜空になりました。残念ながら、オーロラのピーク時間帯は過ぎていて、非常に微弱なオーロラしか見えませんでした。

この晩のメインイベントは、オーロラよりも、流星でした。１月４日は「四分儀座流星群」の極大日なのです。「四分儀座」は、現在の星図にはなく、りゅう座の付近が輻射点（天球上の流星が飛ぶ中心点）です。

観測地は　北緯 67°付近なので、北極星や北斗七星は、ほぼ天頂付近に見えます。りゅう座も高い位置なので、非常に観測に適しているのです。この晩は、いくつもの流星を見ることができました。

（上）全天カメラで見た、北極圏の星空。北斗七星がほぼ天頂に見えます。駅舎の左は月です。

（下）四分儀座流星群の流星。りゅう座からカシオペア座の方向に飛んでいます。地平線近くには、弱いオーロラも写っています。